

KSB制作『検証 ゲーム条例』が民間放送連盟賞テレビ報道番組部門で優秀賞

2021年日本民間放送連盟賞 テレビ報道番組部門におきまして、KSB 瀬戸内海放送が制作した『検証 ゲーム条例』が優秀賞に選ばれました。審査員からは「報道機関の役割と責任を感じさせる調査報道」などと評価いただきました。2021年民間放送連盟賞「テレビ報道番組部門」には全国の民放から94作品の応募があり、地区審査と中央審査を経て、最優秀賞と優秀賞6作品が選ばれました。KSBが制作した番組がテレビ報道番組部門で優秀賞を受賞するのは2018年の「演じて見る～91歳 認知症介護を救った演劇～」以来、3年ぶりです。

当番組はYouTubeで番組全編を公開しています。 <https://youtu.be/rKU94ddbKMc>



【番組】

報・動・力『検証 ゲーム条例』 2020年6月27日（土）午前10時30分～11時25分放送

ナレーション：白戸ゆめの 山下洋平 撮影：廣瀬祐季 池田冬樹 加賀田将史 澤井敦彦

編集：川口明 EED、CG：吉永順平 MA：木村信博 企画・取材・構成：山下洋平 制作統括：本山秀樹

【番組内容】

2020年4月、香川県で全国初めて施行された「ネット・ゲーム依存症対策条例」。罰則はないが、18歳未満のゲームの利用時間を「1日60分（休日90分）まで」とする目安が盛り込まれ、全国的な注目を集めた。

県議会は、県民や事業者から意見を求めるパブリックコメントで「賛成意見」が8割以上という数値を示して採決に踏み切ったが、KSBが情報公開請求した「原本」を見ると、賛成意見には似たような文言が多く使われ、同一のパソコンから連続して投稿された痕跡も見つかった。県内在住の高校生が「憲法違反」だとして訴訟の準備を進め、県弁護士会も「廃止」を求める会長声明を発表するなど、施行後もその是非が問われる異例の条例。導入を目指した背景や狙い、条例の中身と、制定過程の問題点について改めて検証した。

【審査員の講評】

2020年4月に施行された香川県の「ネット・ゲーム依存症対策条例」。番組は、情報公開請求で開示されたパブリックコメントの原本を用いて賛成意見の水増し疑惑を詳細に伝える。さらに施行後も問われる科学的根拠の希薄さ、法令が家庭生活に介入することの是非、制定過程への疑問などについて、さまざまな声を集め、多角的に検証している。丁寧な取材で俗信を振りかざす地方議会の劣化を浮かび上げ、制定を誘導した疑惑に対する問題意識からも報道機関の役割と責任を感じさせる調査報道として秀逸である。

【問い合わせ先】 KSB 瀬戸内海放送 コンテンツ事業ユニット

（広報）引田章徳 087-864-5561

KSB瀬戸内海放送